

令和7年度 練馬区一般廃棄物に関する調査報告書（概要）

■調査目的

区は、令和8年度に第5次一般廃棄物処理基本計画の策定を予定しています。今回の調査は、区内で発生する資源・ごみの排出実態を把握し、資源・ごみの量、区民や事業者の意識・意向などに関するデータを計画策定の基礎資料とするため実施しました。

第1部 組成分析調査

1 調査方法

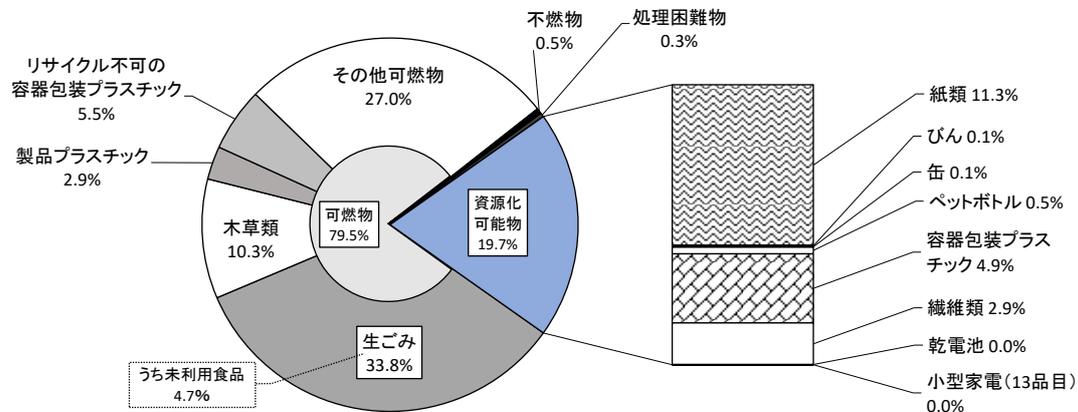
調査対象集積所から可燃ごみ、不燃ごみ、容器包装プラスチックのサンプルを収集し、組成別に分類、計量しました。

2 可燃ごみ

(1) 組成割合

可燃ごみの組成は、分別適正物（可燃物）が79.5%、分別不適物が20.5%でした。資源化可能物の内訳は、紙類が11.3%、容器包装プラスチックが4.9%、繊維類が2.9%などの順となっています。

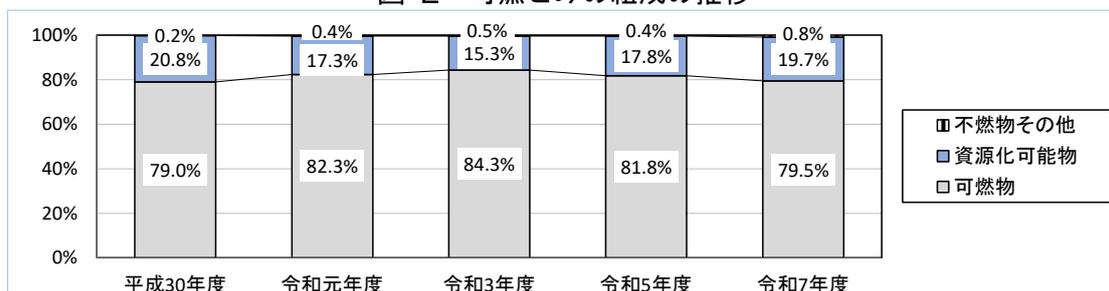
図1 可燃ごみの組成分析結果



(2) 過去の調査結果との比較

令和5年度と比較して、分別適正物（可燃ごみ）の割合が2.3%減少しました。

図2 可燃ごみの組成の推移

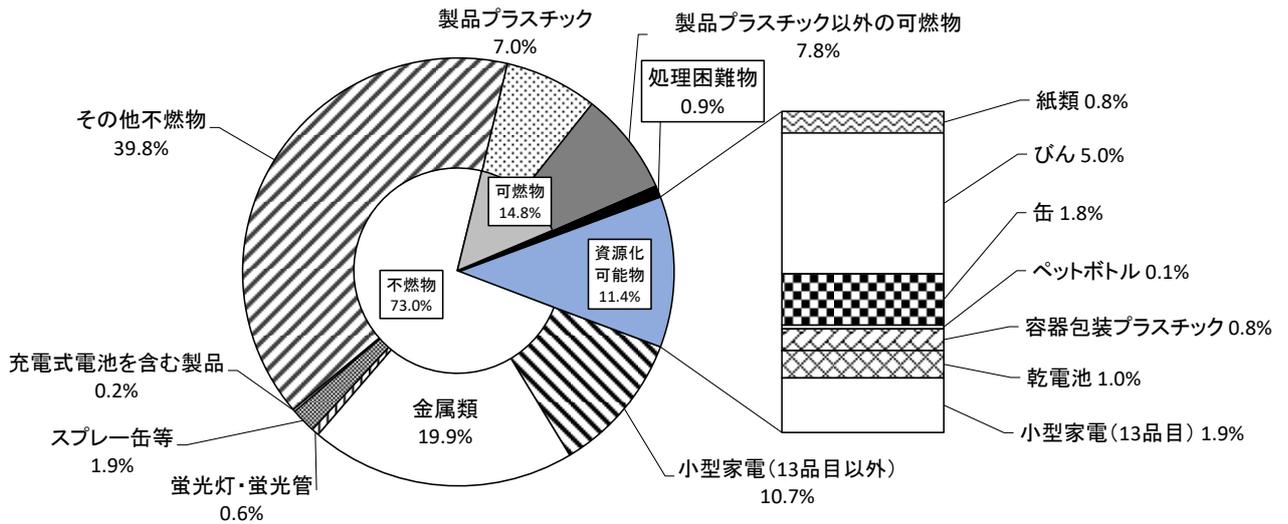


3 不燃ごみ

(1) 組成割合

不燃ごみの組成は、分別適正物（不燃物）が73.0%、分別不適物が27.0%でした。資源化可能物の内訳はびんが5.0%、小型家電（13品目）が1.9%、缶が1.8%などの順となっています。

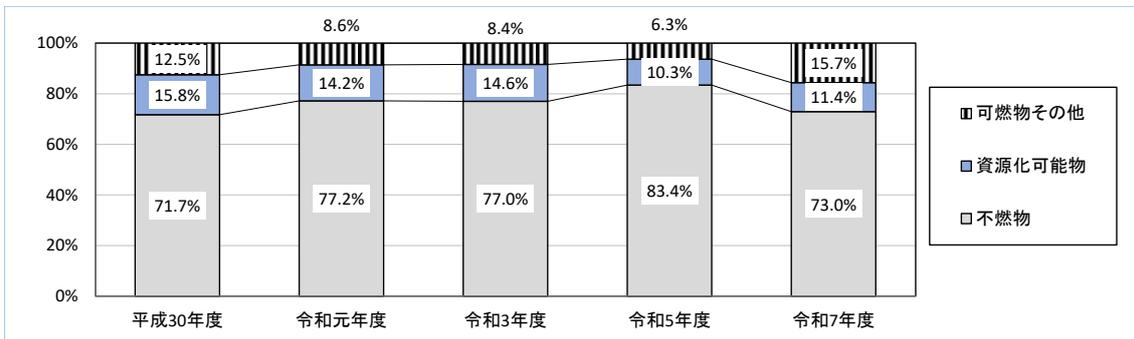
図 3 不燃ごみの組成分析結果



(2) 過去の調査結果との比較

令和5年度と比較して、分別適正物（不燃ごみ）の割合が、10.4%減少しました。

図 4 不燃ごみの組成の推移

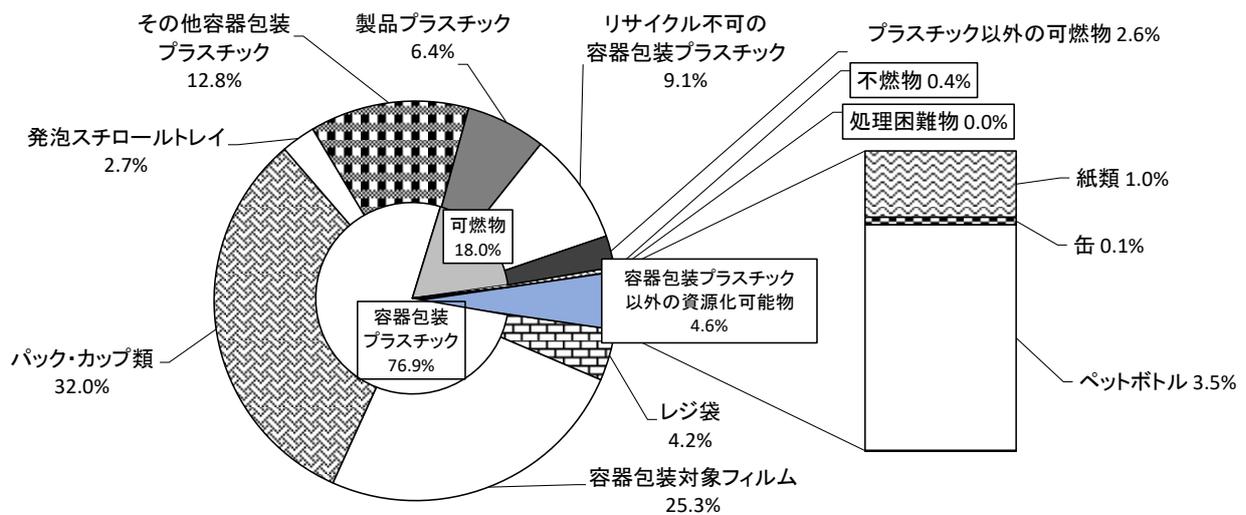


4 容器包装プラスチック

(1) 組成割合

容器包装プラスチックの組成は、分別適正物（容器包装プラスチック）が76.9%、分別不適物が23.1%でした。分別不適物の内訳は、可燃物が18.0%、容器包装プラスチック以外の資源化可能物が4.6%などの順となっています。容器包装プラスチック以外の資源化可能物の内訳は、ペットボトルが3.5%、紙類が1.0%などの順となっています。

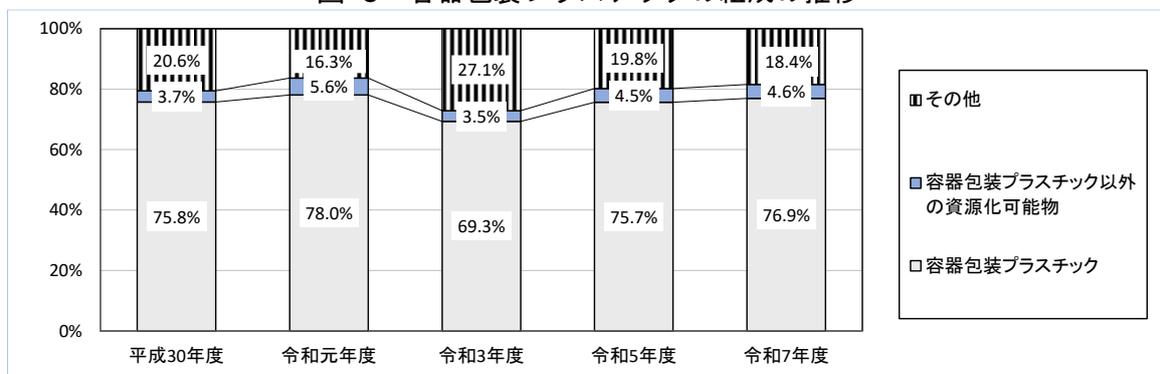
図 5 容器包装プラスチックの組成分析結果



(2) 過去の調査結果との比較

令和5年度と比較して、分別適正物（容器包装プラスチック）の割合が1.2%改善しました。

図 6 容器包装プラスチックの組成の推移



第2部 排出原単位調査

1 調査方法

調査地域の各家庭に調査ラベルを配布し、可燃ごみの排出日に調査ラベルを貼ったごみを出してもらい、袋を計量しました。

2 調査結果

(1) 世帯人数別排出原単位の集計結果

調査地域から得られた733世帯分のサンプルより、世帯人数別に排出原単位（1人1日当たりの可燃ごみ排出量）を集計し、練馬区の世帯人数別の人口で平均を出しました。

表1 可燃ごみの排出原単位の集計結果および加重平均による推計結果

単位:g/人日	
世帯人数	可燃ごみ
1人世帯	358.6
2人世帯	328.2
3人世帯	294.2
4人世帯以上	278.8
加重平均	313.3

(2) 月変動係数による可燃ごみの排出原単位の補正

表1の排出原単位は調査時点である9月の集計であるため、過去3年間の月別可燃ごみ収集量から得られる9月の月変動係数（0.970）で補正を行いました。

表2 可燃ごみの排出原単位の月変動係数による補正結果

世帯人数	調査結果 (g/人日)	補正係数	補正結果 (g/人日)
1人世帯	358.6	0.970	369.7
2人世帯	328.2		338.4
3人世帯	294.2		303.3
4人世帯以上	278.8		287.4
加重平均	313.3		323.0

(3) 不燃ごみ、資源の排出原単位の推計

表2の可燃ごみの排出原単位の補正結果から、可燃ごみ収集量の80.8%が家庭ごみと推計されます（残り19.2%は区収集に出された事業系ごみです。）。

この比率を用いて不燃ごみおよび資源の排出原単位を推計しました。

表3 不燃ごみ、資源の排出原単位の推計

項目	令和6年度実績		家庭系 比率	排出原単位 (g/人日)
	年間量 (t/年)	原単位 (g/人日)		
不燃ごみ	3,650	13.4	80.8%	10.8
資源(集積所回収・街区路線回収)	28,219	103.7		83.8

第3部 区民アンケート調査

1 調査方法

郵送により調査票を送付し、回答は郵送またはインターネットの回答ページにより行いました。

2 調査票の回収状況

発送数	4,050通
宛先不明による返還数	33通
回答数	1,487件
郵送回答	1,041件
インターネット回答	446件
回答率	37.0%

3 調査結果

問1 年齢、世帯人数

回答者の年齢は、60～69歳が最も多く22.9%、次いで70歳以上が22.7%などの順となっています。世帯人数は、2人世帯が最も多く33.1%、次いで1人世帯が28.5%などの順となっています。

図7 年齢

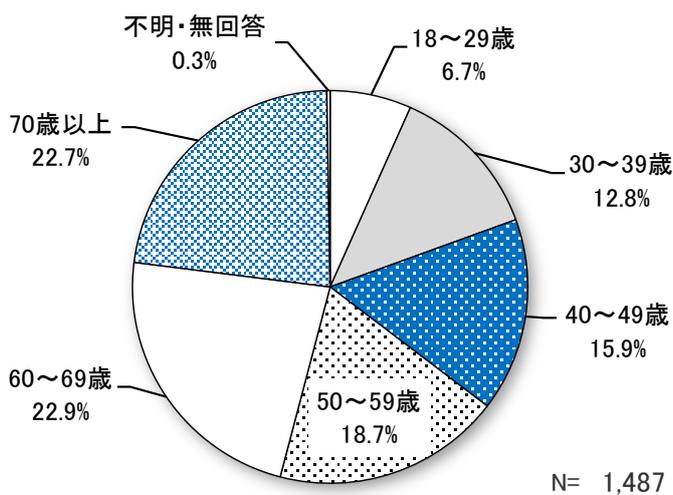
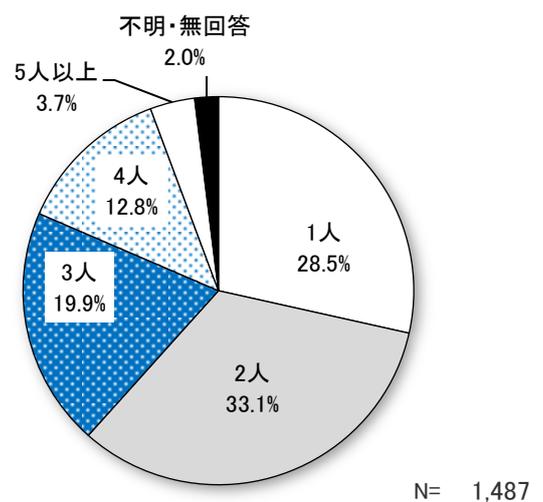


図8 世帯人数



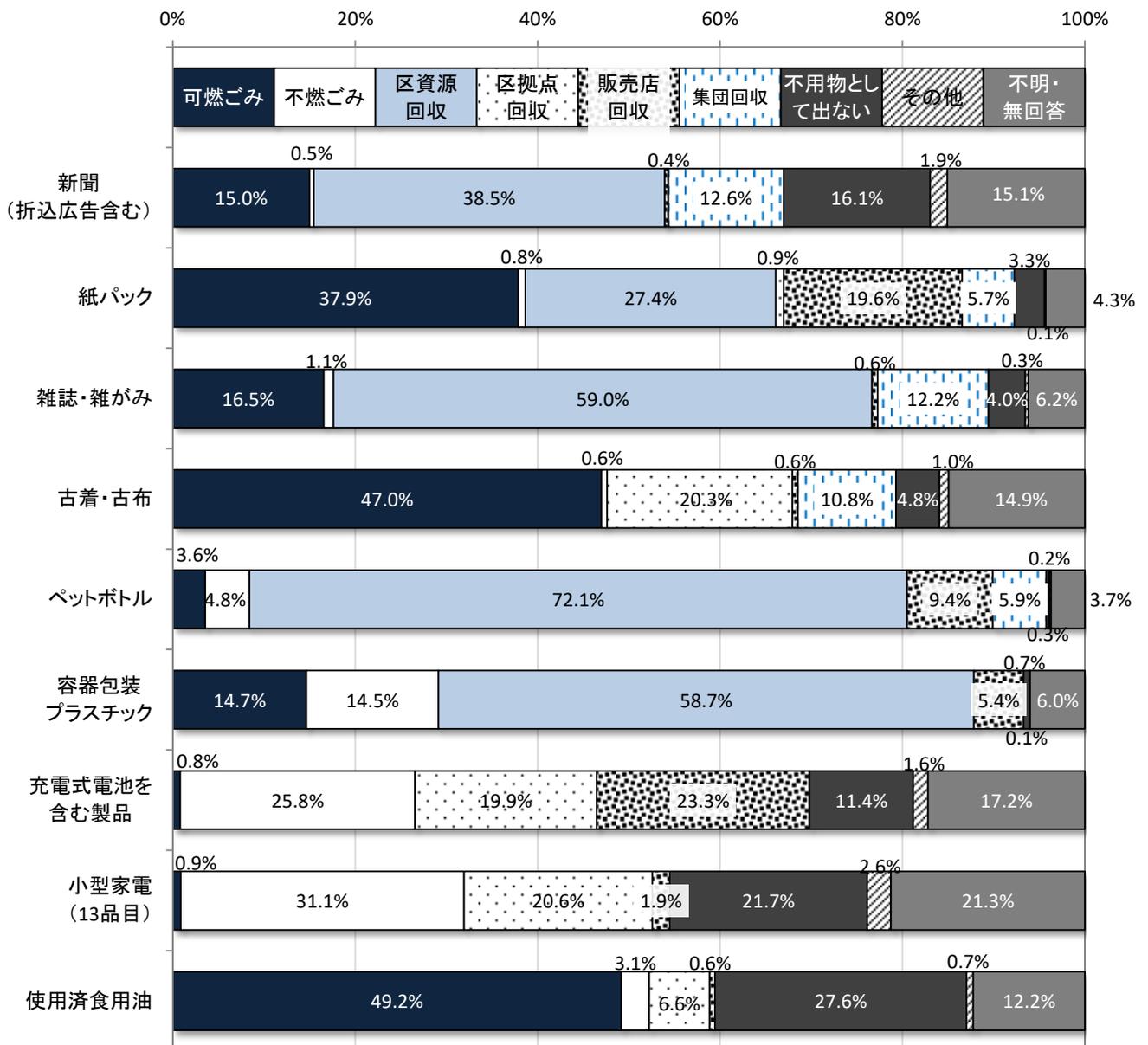
問2 家庭での不用物の処分方法

新聞は、区資源回収が38.5%、集団回収が12.6%でした。紙パックは、可燃ごみが37.9%と他の紙類よりも高く、区資源回収が27.4%、販売店回収（スーパー等の店頭回収など）が19.6%でした。

古着・古布は可燃ごみが47.0%となっています。

充電式電池を含む製品は、不燃ごみが25.8%、拠点回収が19.9%、販売店回収が23.3%と、処分方法が分かれています。小型家電（13品目）は不燃ごみが31.1%と最も多く、拠点回収が20.6%となっています。

図9 資源やごみの処分方法



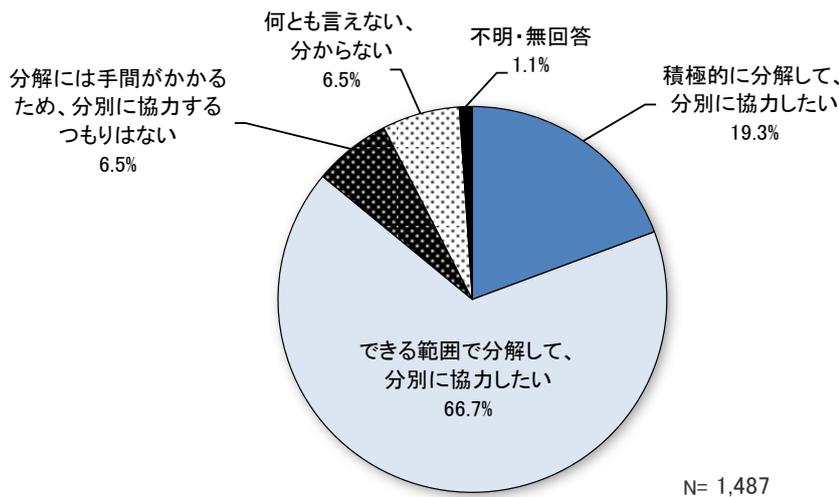
N=1,487

問3 プラスチックごみの分別収集・リサイクル

区では令和8年10月から、ケース類、歯ブラシなどの「製品プラスチック」を容器包装プラスチックと合わせて「プラスチック」として分別収集し、リサイクルすることを予定しています。仮に、金属類などとの複合品を出す場合、可能な範囲で分解していただくことになった場合、協力していただけるかどうかを質問しました。

「できる範囲で分解して、分別に協力したい」が66.7%、「積極的に分解して、分別に協力したい」が19.3%と、協力的な回答が86.0%でした。

図 10 製品プラスチックの複合物の分別への協力について



問4 雑がみの処理

処理方法は、区資源回収が58.4%、集団回収が9.1%と67.5%が資源として分別されているのに対し、可燃ごみが29.9%となっています。

雑がみを可燃ごみとして出す理由は、「出し方を知らなかった」が55.3%と最も多くなっています。

図 11 雑がみの処理方法

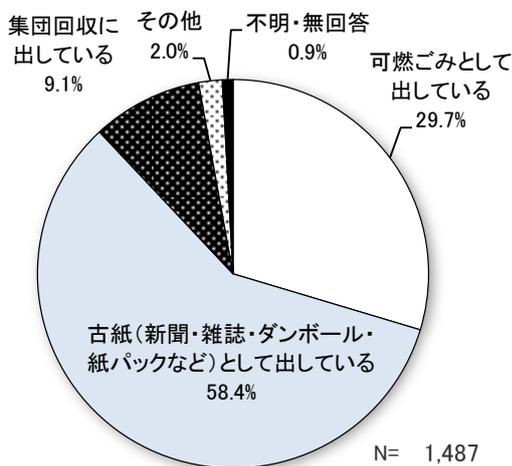
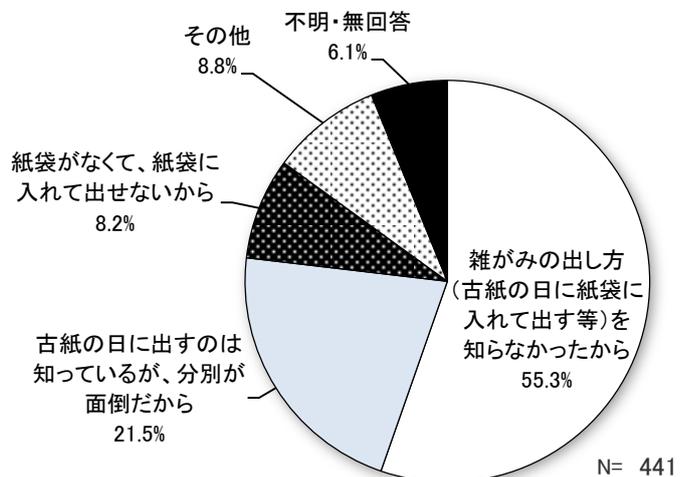


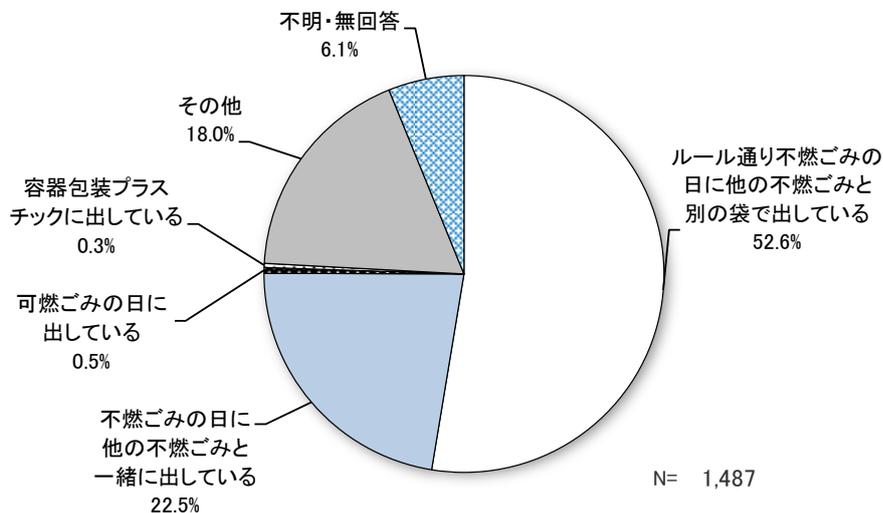
図 12 可燃ごみとして出す理由



問5 充電式電池を内蔵する製品の処理方法

「ルール通り不燃ごみの日に他の不燃ごみと別の袋で出している」が52.6%と半数以上となっています。

図 13 充電式電池を内蔵する製品の処理方法



問6 食品ロス

まだ食べられる（食べられた）食材や食品について、「たまに捨てる」が56.0%と最も多く、捨てる理由は「傷んでしまったから」が76.5%と最も多くなっています。

図 14 排出状況

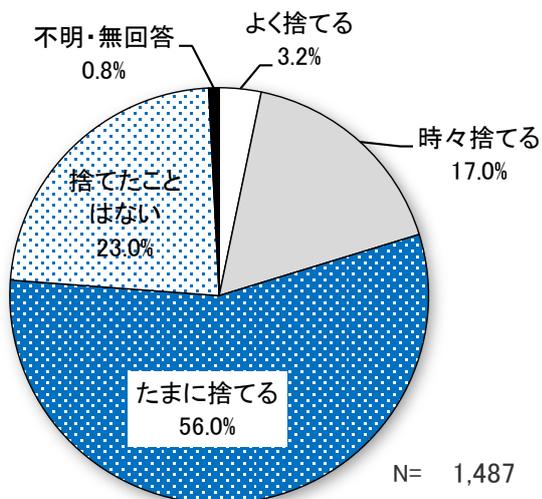
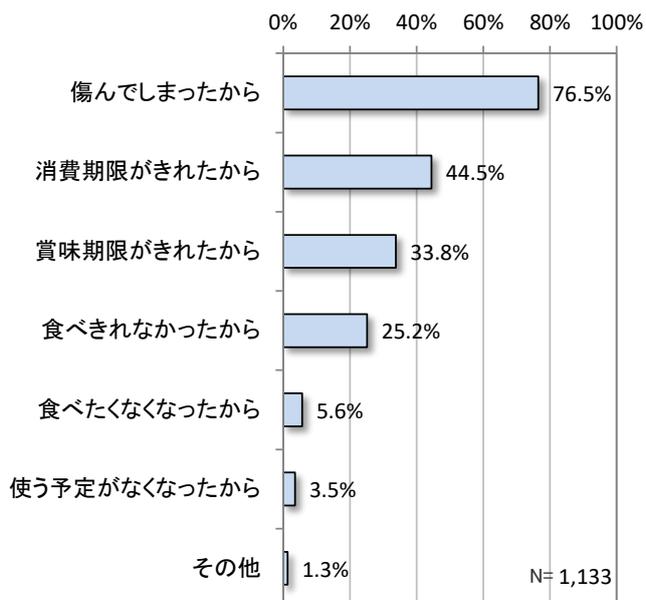


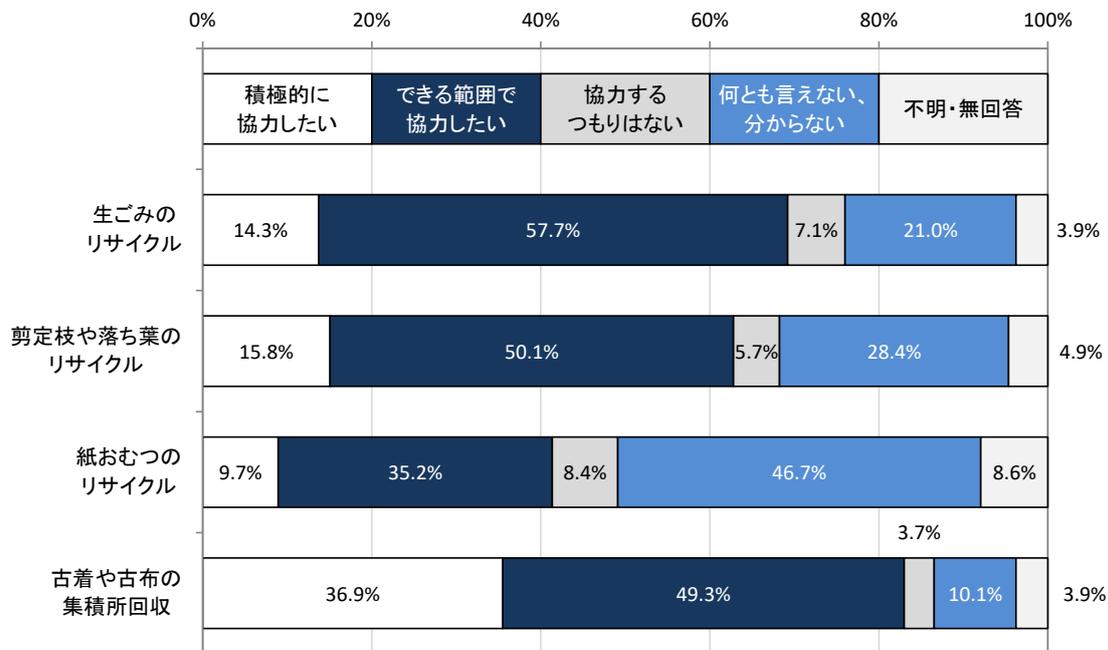
図 15 捨てる理由



問 7 ごみの減量やリサイクル

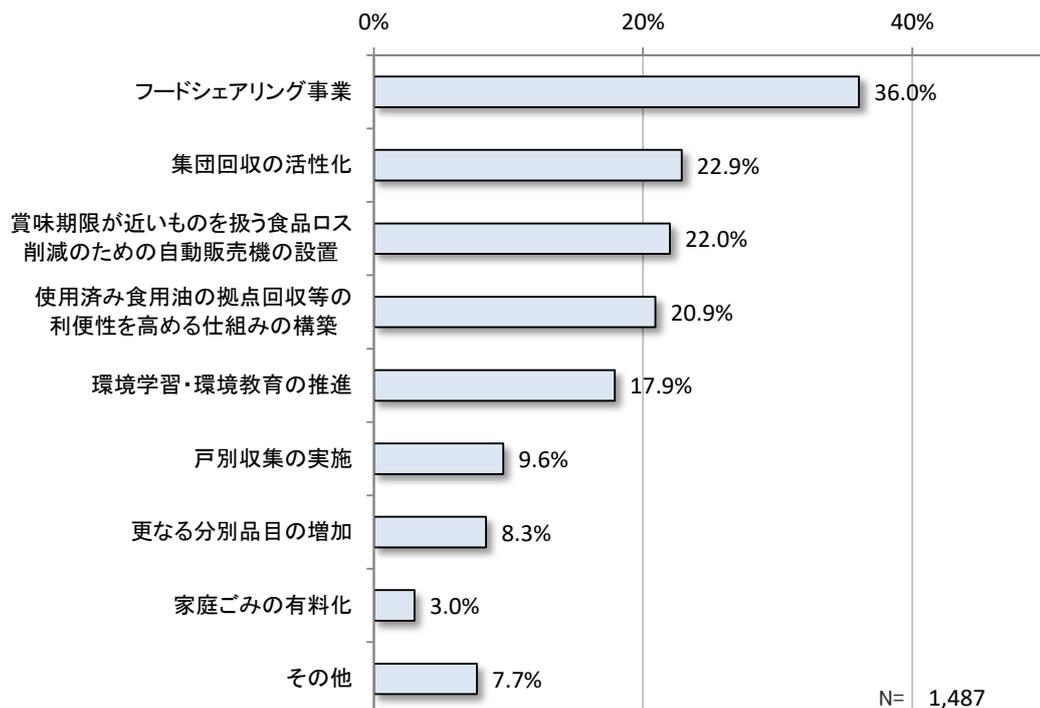
生ごみ、剪定枝や落ち葉、紙おむつ、古着や古布のリサイクルを行うとした場合、古着や古布の集積所回収は「積極的に協力したい」「できる範囲で協力したい」の合計が86.2%と、協力に前向きな回答となっています。その他、区に取り組んで欲しい施策は、「フードシェアリング事業」が36.0%と最も多くなっています。

図 16 新たな資源リサイクルの施策



N= 1,487

図 17 区に取り組んでほしい施策



N= 1,487

問 8 区の情報提供・PR 活動

資源・ごみの分け方・出し方や減量に関する情報源は、冊子「練馬区資源・ごみの分け方と出し方」が53.8%と最も多く、次いで「区のホームページ」が36.2%、「集積所の看板」が33.0%などの順となっています。

知りたい情報は、「区で収集できないものの種類や収集の申込先」で53.3%と最も多く、次いで「資源やごみの分け方や出し方」が50.4%、「粗大ごみの出し方」が38.4%などの順となっています。

図 18 資源・ごみの分け方・出し方や減量に関する情報源

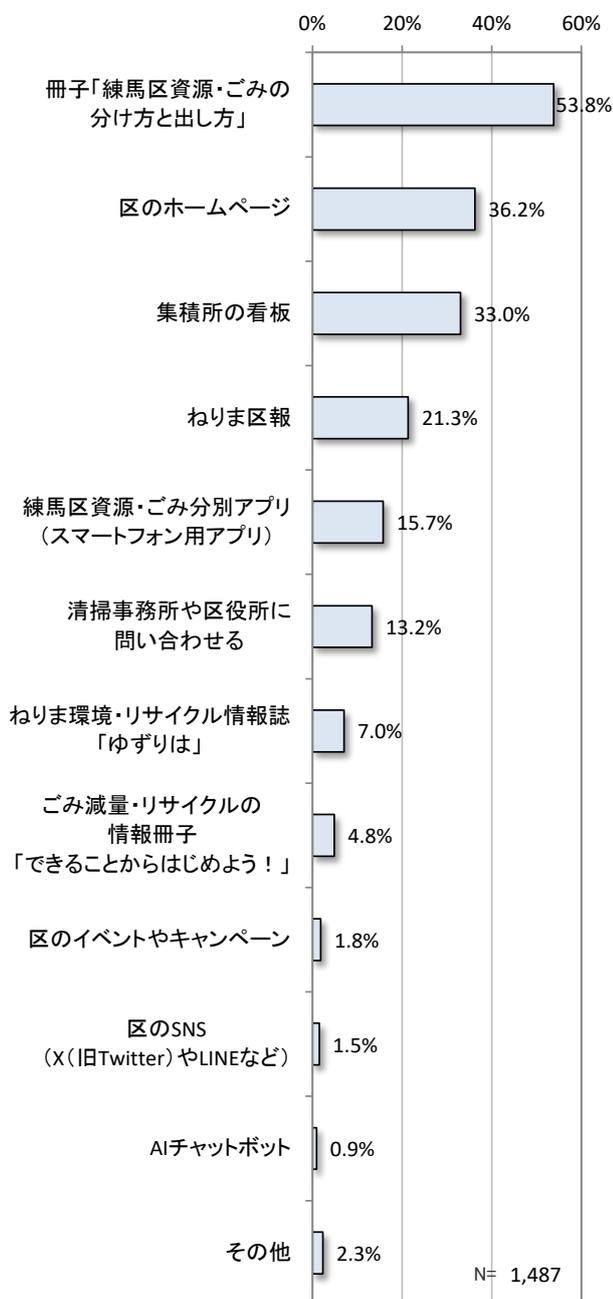
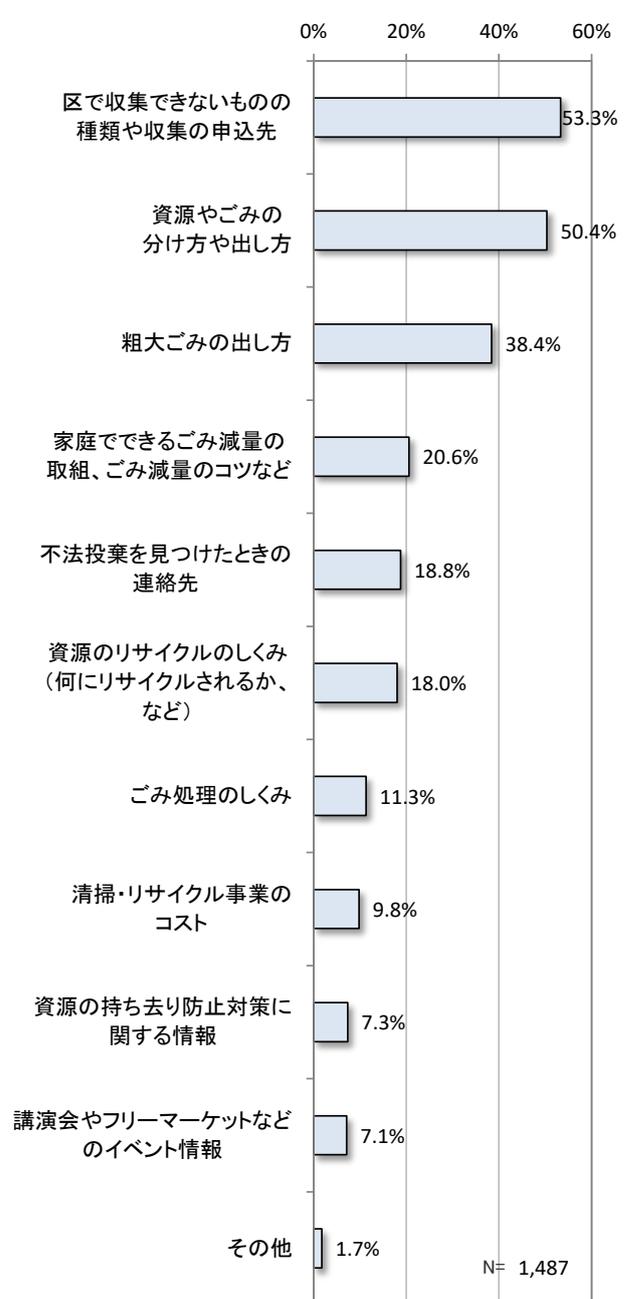


図 19 区の清掃・リサイクルに関する情報で知りたいもの



第4部 事業所アンケート調査

1 調査方法

郵送により調査票を送付し、回答は郵送またはインターネットの回答ページにより行いました。

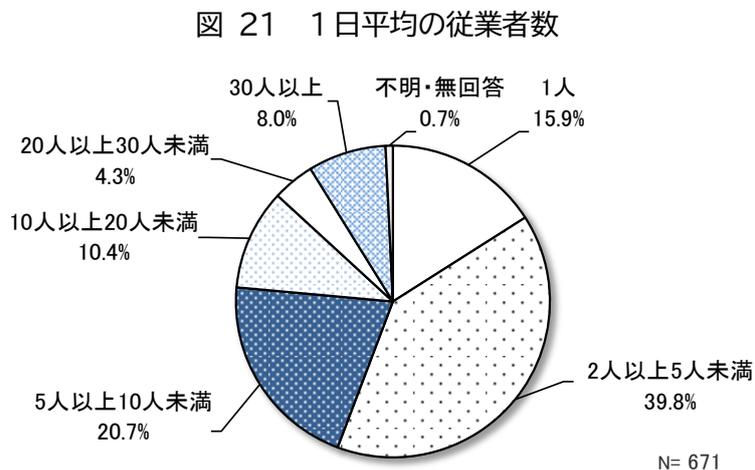
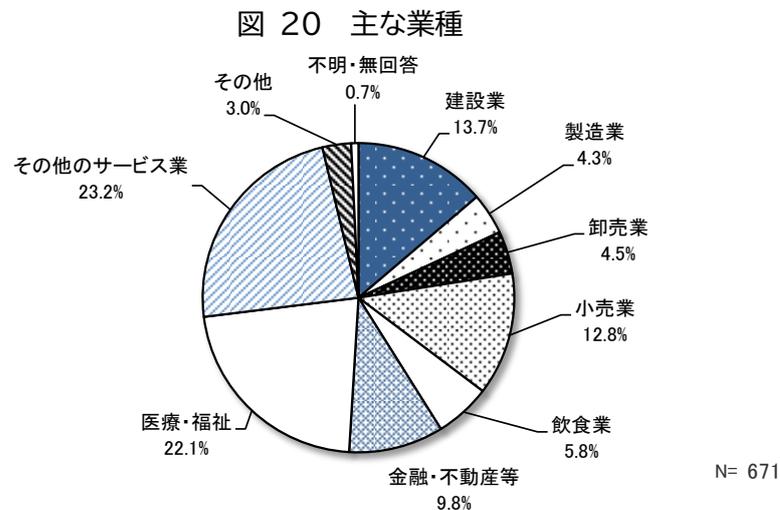
2 調査票の回収状況

発送数	2,500通
宛先不明による返還数	86通
回答数	671件
郵送回答	509件
インターネット回答	162件
回答率	27.8%

3 調査結果

問1 主な業種、1日平均の従業者数

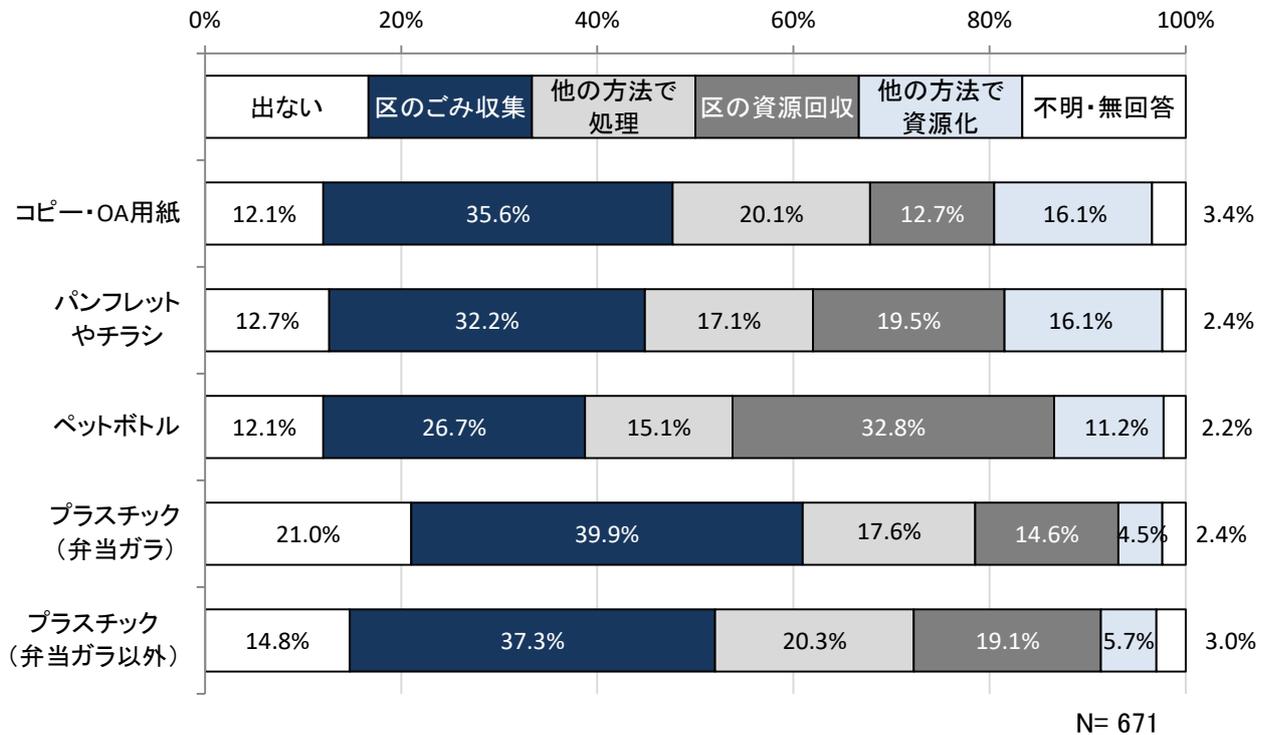
回答事業所の主な業種は、図20のとおりです。1日平均の従業者数は、3/4以上が従業者数10人未満の事業所です。



問2 資源やごみの排出・処理状況等

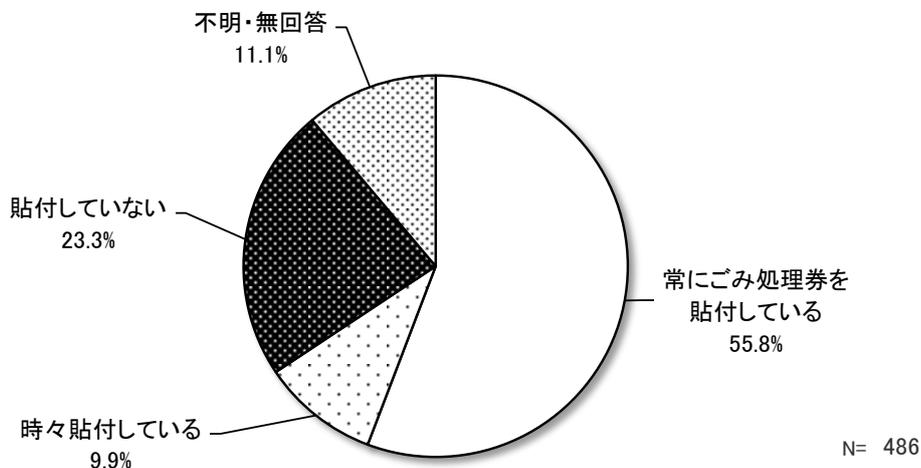
品目別の処理方法について、コピー・OA用紙は区のごみ収集が35.6%でした。一方、ペットボトルは区の資源回収が32.8%でした。プラスチックは、弁当ガラ、弁当ガラ以外とも区のごみ収集が40%弱となっています。

図 22 品目別の処理方法



区のごみ収集に事業系ごみを出す際、事業系有料ごみ処理券を「貼付していない」が23.3%ありました。

図 23 事業系有料ごみ処理券の貼付（ごみ）



問4 ごみ処理やリサイクルに関する情報

ごみ処理やリサイクルに関する情報源は、「区のホームページ」が最も多く35.8%、次いで区民向け冊子「練馬区資源・ごみの分け方と出し方」が31.5%などの順となっています。

今後区に進めてほしい情報提供やPR活動は、「事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法、法制度に関する情報」が33.5%と多くなっています。

図 24 ごみ処理やリサイクルに関する情報源

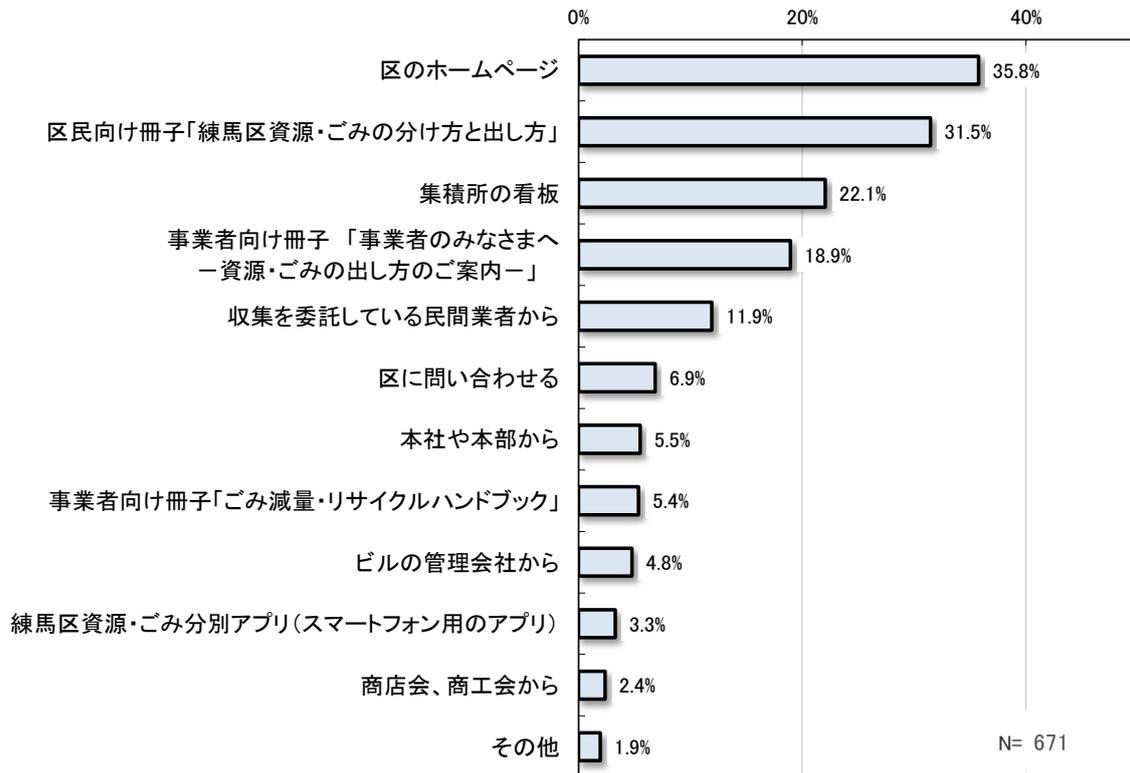
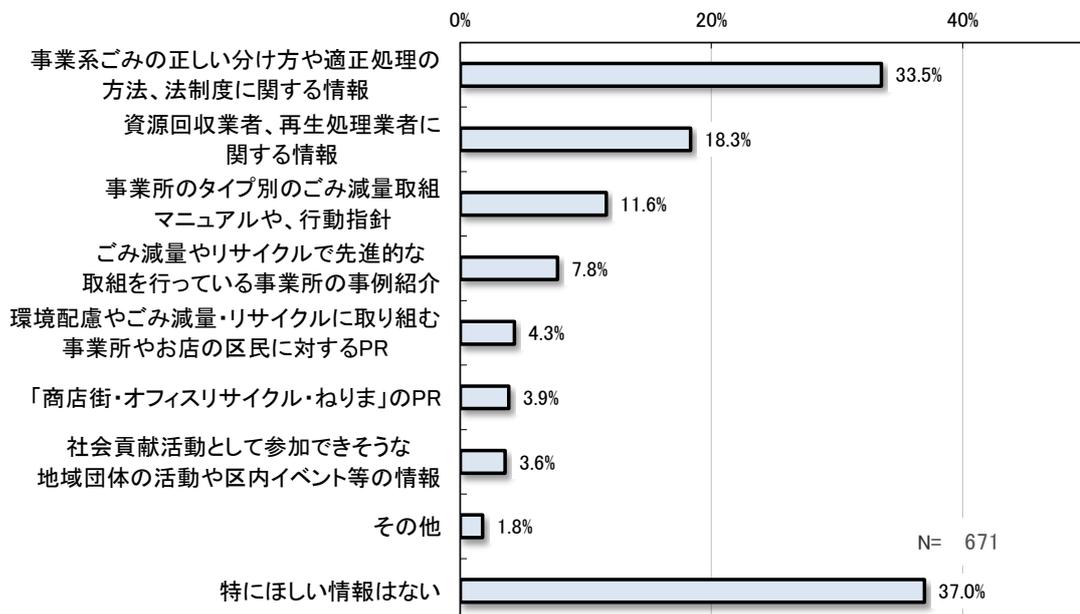


図 25 今後区に進めてほしい情報提供やPR活動



問5 食品関連の事業所

食品関係の卸売業・小売業、飲食業の事業所を対象に、発生する食品ロスの内容をたずねたところ、「消費・賞味期限切れ」が52.8%、「食べ残し」が50.0%などの順となっています。

また、食品ロスを減らすための取組は、「仕入れの段階で食品ロスが少なくなるよう量を調整している」が69.4%で最も多く、次いで「調理段階で食品ロスが少なくなるよう工夫している」が44.4%などの順となっています。

図 26 食品ロスの内容

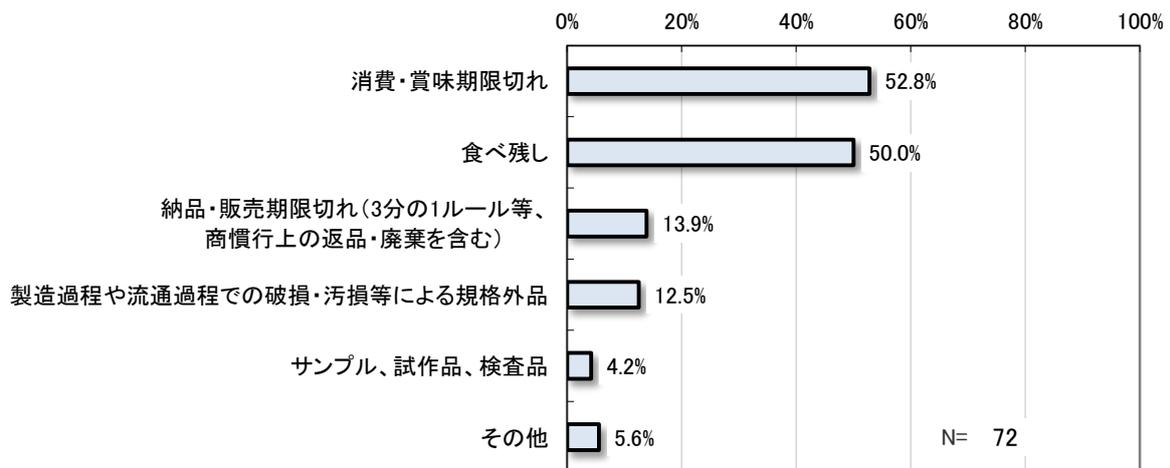
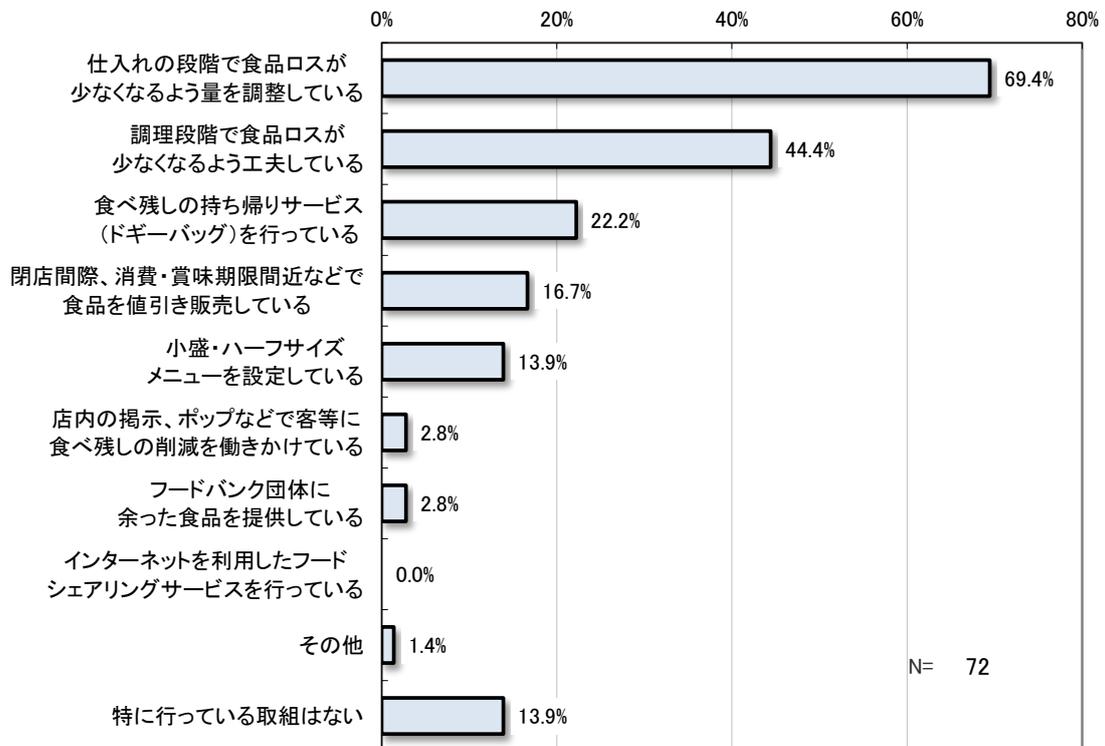


図 27 食品ロスを減らすための取組

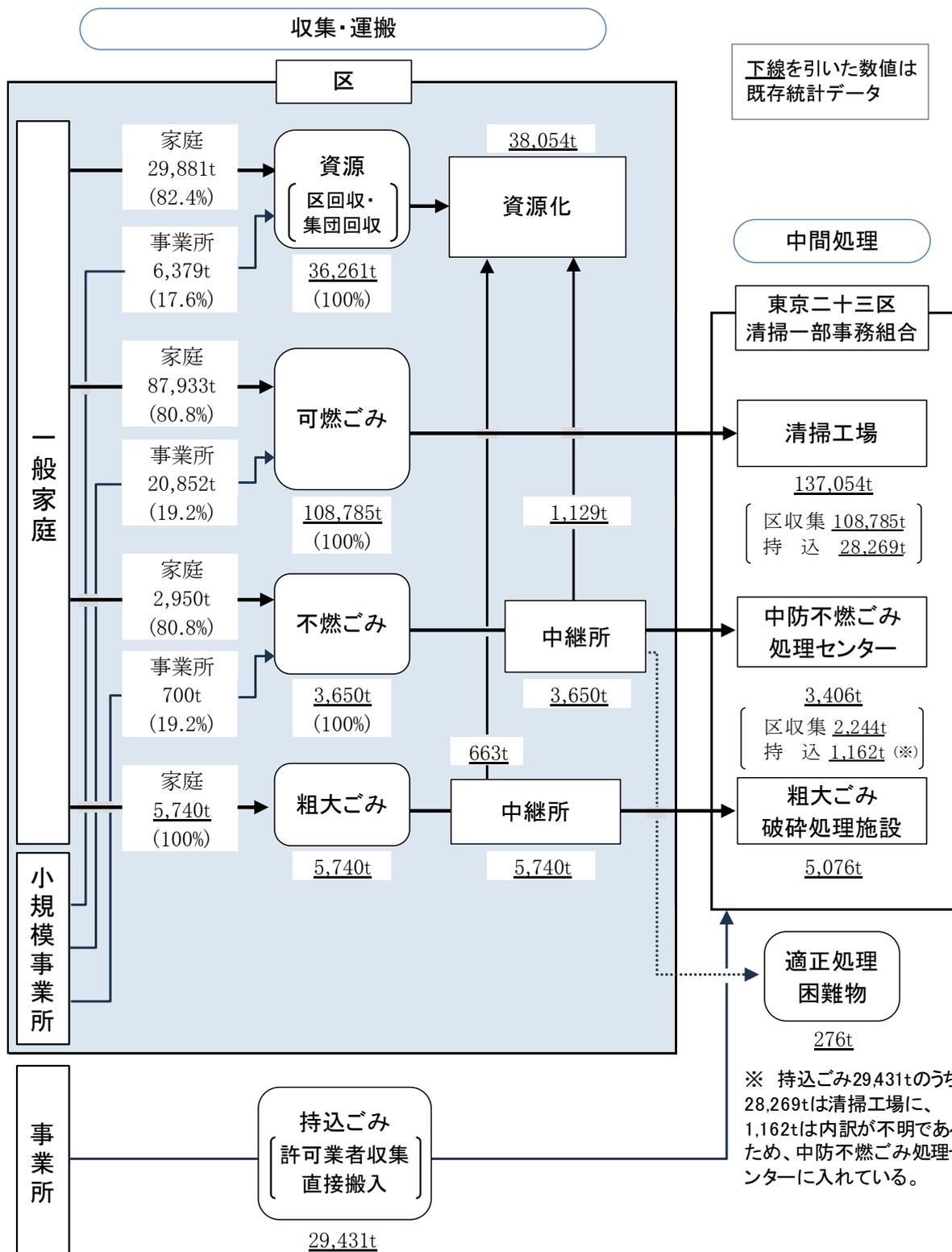


第5部 資源・ごみ量の推計

排出原単位調査や事業所アンケート調査から得られたデータを分析し、区全体の資源・ごみの流れを推計しました。

例えば、区収集可燃ごみに含まれる事業系ごみの割合は19.2%と推定されます。

図 28 練馬区全体の資源・ごみフロー推計結果



令和8年（2026年）3月発行

発行・編集 練馬区 環境部 清掃リサイクル課

〒176-8501 東京都練馬区豊玉北 6-12-1 Tel 03-5984-1095（直通）